



# みちくさ

放浪篇 No.11 平成 29 年 12 月 8 日

## 歴史上で 12 月 8 日に起こったこと



この日はどんな日だったかという問いかけをすると、日本人なら真珠湾攻撃が行われた日、つまり太平洋戦争が始まった日と答えるのが当たり前だと思うし、自分もそう思う。ただ、この日にはもう一つ自分の中では重要な出来事が隠されている。それはビートルズのジョンレノンが殺害された日でもあるのだ。

教員人生 2 年目で、その頃は南光台のアパートに一人暮らししていた。職場から帰り、夕方 7 時のニュースにそれは飛び込んできた。「えっ？なんで」というのが率直な自分の感想であった。

享年 40 歳。まだまだ若すぎた年齢といえる。犯人はマーク・チャップマンという男性。その頃は 20 代で自分とたいした変わらない年齢だったから、なおさらショックであった。レノンは身体に 5 発の銃弾を撃ち込まれ、80%もの血液を失い失血死であったということだ。駆けつけてきた警察官は、あまりの事の重大さを認識し、救急車を待つまでもなく、パトカーで近くの病院に搬送したが、時すでに遅し。

世界は偉大な作曲家でシンガーの一人を失ったのである。音楽に限らず、カルチャーにも多大な影響を与えていた人物であったので、その喪失感は大きかった。自分もなんか気が抜けてしまったというか、しばらく放心状態だったのを覚えている。

ビートルズが再結成するのではないかという噂は時々流れていたし、そういう希望をたくさんの人たちが抱いていたということなのだろう。でもこれでその夢も失われてしまった。

レノンの生き方は破天荒なところがあったが、音楽のみならず美術とか、様々な才能に恵まれていた人だったと思う。今にして思えば、ポール・マッカートニーの方が音楽的には才能に優れていたと思うが、レノンの書く詩やその行動力には、メンバーの誰もが勝てなかったし、そもそもビートルズは彼がつくったバンドだったのである。

もし、まだ存命だったら、今頃何をしていただろうかというインタビューに、ヨーコは答えている。おそらく、インターネットに夢中になって、そこで新たな発信をしているのではないかということである。レノンも生きていれば 70 歳を超える年齢である。レノンのみならず、ジミ・ヘンドリクス、フレディー・マーキュリー、ジョン・ボーナム、ジョージ・ハリソン、ブライアン・ジョーンズ・・・と、ロック史上では早世してしまった人たちが多く。彼らがまだ活躍していたのなら、音楽シーンももっと違うものになっていたかもしれない。

## ウィンタースポーツ

昔からスキーは好きでした。(ダジャレではありません) 子どもの頃はとにかく雪が降りましたし、道路に車も少なかったので、積雪があればスキーやスケートをして遊びました。就学前から、近くの小山までスキーをはいて道路を滑っていき、そこで遊んで帰ってくるというのが冬の遊びでした。小学校に入り少し大きくなってからは、自衛隊の駐屯地内にある砂山がかっこうのスキー場になりました。まあスキー場といっても頂上からターンを2回すれば、もう下に着いてしまうという大きさではありましたが。日が暮れるまで、何度も何度も往復して、ターンの練習をしたり、ミニジャンプの真似事をしたりして遊んでいたものです。



亡くなった親父は2級のバッジをもっていたので、けっこうそれなりに滑れる人でした。中学に入った頃、山形蔵王に連れて行ってもらいました。ボーゲンくらいしか出来ないのに、地蔵まで連れて行かれ、そこからとにかく降りろとなったわけです。狭いざんげ坂をボーゲンで下るのはけっこう難しいです。横の藪になんだか突っ込みながらも、なんとか降りてきたことを覚えています。

本格的にスキーを楽しむようになったのは、やはり大学に入ってからでしょうか。秋田県内でも、大館や鷹巣といった北部の出身者はとにかくスキーが上手なのです。学校の授業でやったり、スキークラブみたいなものがあったりしたことでした。大学でのスキーは、もっぱら田沢湖スキー場まで行っていました。北部出身者に負けないよう、しっかりと自主トレをしたのもこの頃でした。

大学3年になり、専門学科の単位習得も進んでくると、やや空き時間ができるようになるのです。後期の授業を組むときに、一日授業空きの日をつくり、その日は前日から車をもっている友達を自宅に泊め、朝早く出かけていきました。秋田市から田沢湖まで2時間かかります。8時にはゲレンデについて滑っていました。

田沢湖スキー場は、晴れている日であれば、眼下に見える田沢湖に向かって滑っていくような醍醐味を感じることが出来る場所です。今ではたくさんゲレンデが整備されていますが、昔はそんなに多くはありませんでした。高校生の頃だったと思いますが、秋田駒ヶ岳が火山活動を起こした時期があり、その時はリフトに乗っていて、時々どーんと音が鳴り、地震のようにリフトの座席がぐがくと揺れるといったことがありました。息子が小学生の頃まで、帰省した際に田沢湖スキー場に行っておりましたが、自分も30代後半になり忙しくなってしまうと、どうしてもスキーから遠ざかってしまいました。

今でももちろん滑りたいとは思いますが、スキーもウェアも全部処分してしまいましたので、一から揃えなくてはならないので敷居が高いですね。仮にスキーに行ったとしても、膝がもたないのではないかと思います。鎖骨も折っているし、たぶん難しいのかなと自己判断ですけど。